

SAPIX	6年		
	算数		
学習内容	5月の学習内容 10回 立体図形 (2) 11回 拡大・縮小 12回 変化のグラフ 13回 場合の数		
家庭学習ポイント	5月は、5年生までに学んでいる重要単元をより深める学習が続きます。条件整理や問題を解きすすめる手法を確認しながら、丁寧に学習を進めましょう。11回「拡大・縮小」では、相似形を利用して解く問題を中心にした学習を行います。相似の代表的なパターンを身に着け、同時に複合図形から代表的なパターンを見つけ出すことがポイントになります。徹底的に演習して、代表パターンを見つけ出せるようにしましょう。長さの比と、面積比の関係も適切に利用しましょう。12回「変化のグラフ」では、グラフの読み取り方、特に変化が起こる瞬間（グラフの傾きが変わる瞬間）とその前後の違いに注目しましょう。水入れなどの水位の変化について、時間、底面積、高さの関係と、比、グラフ内の相似形などの条件整理がポイントです。13回「場合の数」では、「並べる」「選ぶ」といった操作を確認しましょう。そのうえで、正解につながる手法、解法を正しく選択できるよう練習しておきます。検算しづらい単元ですから、初動の条件整理を正確に行えるかどうかで大きく点差が開きます。		
課題の把握と解決策	チェック1	立方体の切断面を正しく作図できていますか？	チェック
	解決策	切断面の把握は難関校頻出。立方体が「ない部分」まで含め三角すいを描くイメージで	□
	チェック2	長さの比と面積比の区別がついていますか？	チェック
	解決策	ピラミッド型の相似形を用いて、相似比の確認、面積比の確認を行きましょう	□
	チェック3	複合図形の中から相似のパターンを見つけ出せていますか？	チェック
	解決策	ピラミッド型、ちょうちょ型の相似形に注目、すぐに見つからない場合は補助線を引いてみましょう	□
	チェック4	グラフから得られる情報を整理できていますか？	チェック
	解決策	傾きが変化する点に注目。水槽を正面から見た図で条件の整理を行きましょう	□
	チェック5	場合の数、組み合わせを求める解法を整理してから問題に取り組んでいますか？	チェック
解決策	区別できるもの、区別できないものを正確に捉えましょう	□	
SAPIX	6年		
	国語		
学習内容	5月の学習内容 10回 文章テーマ/物語文04 ライバルと仲間 物語文 11回 知の冒険/これまでに学んだ敬語を総復習しよう 随筆文 12回 文章テーマ/物語文05 かつての日本の風景 物語文 13回 文章テーマ/論説文05 他者と自分の関係 論説文		
家庭学習ポイント	10回のA授業の素材文は物語。何気ない仕草などから、登場人物の心情を読み取る訓練です。文章テーマは「ライバルと仲間」ですが、入試問題でも非常によく扱われるテーマです。「コトノハ 実践編」でしっかりポイントを確認しましょう。11回は敬語の総復習です。5年生までに学んできた敬語と手紙文の確認を行います。動作の主体がどこにあるのかを捉えてから、「尊敬語」「謙譲語」を使い分けましょう。また、「手紙」という形式を、実際に手紙を書く中で身につけていきます。12回「かつての日本の風景」では、入試でもよく扱われる明治から昭和にかけて活躍した文豪たちが描く日本の時代背景や昔の言葉、古い言い回しの持つニュアンスなどを学びます。得られたニュアンスから読み解く方法も身につけましょう。他者と自分の関係では、主観と客観を学び、脱文挿入問題の技術につなげます。ポイントは「つながり」＝指示語や接続語の発見です。		
課題の把握と解決策	チェック1	お子さんは、敬語を正しく使えていますか？	チェック
	解決策	入試で問われる尊敬語と謙譲語を見分けるには、動作の主体に注目するのがポイントになります	□
	チェック2	物語文の時代背景を知っていますか？	チェック
	解決策	その時代を表す雰囲気やニュアンスにはどのようなものがあるか、親子で話し合ってみましょう	□
	チェック3	文豪の代表作を知っていますか？	チェック
	解決策	夏目漱石、森鷗外、川端康成、芥川龍之介といったよく扱われる作者の著作を読んでおきましょう	□
	チェック4	文章の前後のつながりを素早く判断できますか？	チェック
	解決策	段落ごとのキーワードを捉え、指示語、接続語、言い回しから繋がりを見つけましょう	□
	チェック5	比喩が具体的に何を意味しているのか把握できていますか？	チェック
解決策	比喩によって何を、何に例えているのか、その共通点を理解することが大切です	□	

SAPIX	6年		
	理科		
学習内容	5月の学習内容 10回 ばね 11回 地層 12回 中和計算 13回 星の動き		
家庭学習ポイント	<p>暗記単元と計算単元が交互にあります。どちらを学ぶときにも、「なぜそうなるのか」という疑問を持って学習に臨むことが大切です。得られる効果が大きく変わります。地層では、流水の3作用と、それを踏まえた地層のでき方を、ただの丸暗記で済ませてしまうのではなく、因果関係をもとに記憶しておくことが大切です。地学の知識では、実際に川に行ったことがあるなどの体験があるお子さんとそうでないお子さんとで、大きく理解度に差が出ます。とはいえ6年生は実際に出かける時間もあまりありませんから、Eテレなどの動画を活用してもいいでしょう。中和計算のポイントは「完全中和点の読み取り」です。グラフなら傾きが変わる点、表なら変化量が変わる点に注意しましょう。酸性、アルカリ性の水溶液の特徴、BTB液やフェノールフタレイン液といった指示薬の理解も、「なぜ？」を中心に確実なものにしてしまいましょう。星の動きも丸暗記を避け、透明半球や星座早見の仕組みや使い方をともに理解することが大切です。また、この単元は空間を把握することに意識を向けましょう。ここでのトレーニングが後々効果的な学習に繋がります。</p>		
課題の把握と解決策	チェック1	流水の3作用と、なぜその作用が起こるのか説明できますか？	チェック
	解決策	授業時の説明を自分で再現できるとほぼ理解が完璧に深まったと言えます。授業後の復習が鍵です	□
	チェック2	中和計算の問題で、中和の状態を言葉で式にできますか？	チェック
	解決策	情報や解法を丸暗記にせず、条件を整理して理解とともに先生の解説を再現する学習がおすすめです	□
	チェック3	星の動きを正しく説明できますか？	チェック
	解決策	自分が透明半球の真ん中に立っている、という仮定から全問説明ができるよう練習しよう	□
	チェック4	太陽、地球、それぞれの星座の位置関係を把握できていますか？	チェック
	解決策	模式図を書き、太陽に比べて星座を構成する星は非常に遠くにあるというイメージで	□
	チェック5	テキストの「科学の図鑑」を活用していますか？	チェック
	解決策	理科はボリュームが多くて大変ですが「科学の図鑑」は入試の総合問題に直結します	□
浜学園	6年		
	社会		
学習内容	5月の学習内容 10回 日本国憲法 (1) 日本国憲法の三大原則 11回 日本国憲法 (2) 基本的人権 12回 三権分立 (1) 国会 13回 三権分立 (2) 内閣と裁判所		
家庭学習ポイント	<p>10回は、日本国憲法の誕生と三大原則のうち「国民主権」「平和主義」について詳しく学習します。11回では憲法、基本的人権について、その種類と内容の理解を行います。自由権と社会権の成り立ちの違いを知り、参政権、請求権、新しい人権について理解を深めます。人権がどのような経緯で守らなければならない大切な権利と考えられるようになったのか、など理解していきましょう。入試問題では、実際に現代社会の中で問題になった事例を使った問題になることが良くあります。ですから、丸暗記ではなく内容理解がとても大切になります。12回では、三権分立について、その経緯を正しく質問して解消していきましょう。国会については、「国民主権」がその根底にあることを正しく理解しておくことがポイントになります。13回では行政権を持つ内閣と、司法権を持つ裁判所について学習します。内閣の仕事を把握したのち、裁判所が司法権の独立を憲法で認められている理由についても考えてみましょう。</p>		
課題の把握と解決策	チェック1	なぜ日本国憲法が誕生したか、三大原則の理由を含めて説明できますか？	チェック
	解決策	歴史で学習した第二次世界大戦と関連して理解しておくことが大切です	□
	チェック2	基本的な人権とは何か説明できますか？	チェック
	解決策	その種類と内容を説明できるところまで理解を深めましょう	□
	チェック3	三権分立とは何か説明できますか？	チェック
	解決策	その設立経緯まで含めて理解しておきましょう。国民主権についても理解を深めましょう	□
	チェック4	内閣の仕事、裁判所の仕事を知っていますか？	チェック
	解決策	行政権と司法権について正しく、司法権の独立についても経緯から理解することが大切です	□
	チェック5	テキストの「もっと知りたい」を読んでいますか？	チェック
	解決策	もちろんテストの範囲ではあるのですが、読むことによって知識が立体的になります	□